



# 保健室だより

令和5年2月1日  
鳥取東高等学校  
保健室



1月に入り、本校でもインフルエンザが複数名発生しました。今季は、新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの同時流行に伴い、医療機関の混雑が予想されています。そのため、県教育委員会の指示を受け、出席停止後の登校許可書の様式を見直すこととしました。従来であれば、出席停止となる感染症（インフルエンザ、溶連菌感染症等）に罹患した場合、医療機関を再度受診し、登校許可書を医師に記入してもらっていました。しかし、2月1日より、書類名を登校届出書に改め、保護者に記入いただく様式に変更します。ただし、医療機関を適切に受診されていることを確認するため、**調剤明細書等の写し等が1通必要**になります。本校ホームページの掲載様式も併せて変更しています。

## インフルエンザの場合、2箇所のチェックが必要

感染症による出席停止後の登校届出書  
鳥取県立鳥取東高等学校

感染症治療後は登校する際に、本書面並びに医療機関を受診したことを証明できる書面1通（調剤明細書の写、薬情報等の写等）を担任に提出ください。

生徒の学年・組・氏名  年  組 氏名

【保護者記入欄】

○をつける	病名	出席停止期間
	第一種感染症（新・感染症予防法の一類感染症・二類感染症です。）	治療するまで
	インフルエンザ	発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日を経過するまで
	百日咳	特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで
	麻疹（はしか）	解熱後3日を経過するまで
	流行性耳	鼻又は舌下腺の腫れ5日を経過し、聴力が良好になるまで
	風疹（三日ばしか）	発疹が消失するまで
	水痘（みずぼうそう）	全ての発疹が痂皮化するまで
	咽頭結膜熱（プール熱）	主要症状消失後2日を経過するまで
	結核	学校医その他の医師において感染の恐れがないと認められるまで
	髄膜炎菌性髄膜炎	
	腸管出血性大腸菌感染症	
	流行性角結膜炎	
	急性出血性結膜炎	
	溶連菌感染症	適正な抗菌剤治療開始後24時間を経て全身状態が良好になるまで
	感染性胃腸炎	学校医その他の医師において感染の恐れがないと認められるまで

医療機関で治療を受けていましたが、病状が回復しましたので、令和 年 月 日より登校します。  
診察を受けた医療機関名

生徒氏名

保護者名  印

【学校記入欄】

登校可能な日付、受診した医療機関名、生徒氏名、保護者名（押印必要）の記入

発症した日、病院を受診した日ではなく、症状が始まった日で、その日を0日と数えます。  
発症から5日を経過し、6日目から登校が可能です。

解熱した後、2日発熱がありません。  
※解熱した日を0日と数えます。解熱から2日経過し、解熱後3日目から登校が可能です。

「インフルエンザ出席停止期間の基準」早見表

	発症日 0日目	発症後 1日目	発症後 2日目	発症後 3日目	発症後 4日目	発症後 5日目	発症後5日を経過した後	
例1 発症後1日目に 解熱した場合	発熱 出席停止	★解熱 出席停止	解熱後 1日目 出席停止	解熱後 2日目 出席停止	発症後 4日目 出席停止	発症後 5日目 出席停止	登校可 ■	
例2 発症後2日目に 解熱した場合	発熱 出席停止	発熱 出席停止	★解熱 出席停止	解熱後 1日目 出席停止	解熱後 2日目 出席停止	発症後 5日目 出席停止	登校可 ■	
例3 発症後3日目に 解熱した場合	発熱 出席停止	発熱 出席停止	発熱 出席停止	★解熱 出席停止	解熱後 1日目 出席停止	解熱後 2日目 出席停止	登校可 ■	
例4 発症後4日目に 解熱した場合	発熱 出席停止	発熱 出席停止	発熱 出席停止	発熱 出席停止	★解熱 出席停止	解熱後 1日目 出席停止	登校可 ■	
例5 発症後5日目に 解熱した場合	発熱 出席停止	発熱 出席停止	発熱 出席停止	発熱 出席停止	発熱 出席停止	★解熱 出席停止	解熱後 1日目 出席停止	登校可 ■

※出席停止期間中は、家庭で安静に過ごしましょう。

◎ インフルエンザの出席停止期間の基準は、「発症した後5日を経過し、かつ解熱した後2日を経過するまで」です。  
◎ 発熱が5日間以上続く場合は、インフルエンザ以外の感染症の可能性も考えられます。